



あがふるさと 西条を想う、西条と語る

このまちで生まれた人、このまちを愛する人。各分野で活躍する西条市ゆかりの方々に、その魅力を語っていただきました。そこには、ふるさとの新たな魅力が秘められています。

There are many who were born here and continue to love this city. We talked to prominent figures originally from Saijo. Yuto Nagatomo is an international-level professional soccer player, Masafumi Aikawa is a tenor vocalist who is active all over the world, and Nae Uda is a female judoka who won the gold medal in the 2014 World Judo Championship. We asked them to share their thoughts on what they feel is appealing about Saijo City. We hope that their words will help readers discover new attractive aspects of this city.

生まれ育った 西条市の野山が、 僕の夢の原点です

サッカー選手
長友 佑都さん

Yuto Nagatomo

愛媛県西条市出身。東予市立三芳小学校（現・西条市立三芳小学校）・西条市立神拝小学校・西条市立北中学校を経て、福岡県東福岡高校を卒業後、明治大学政治経済学部在学中、体育会サッカー部でプレーし、日本大学選抜に選出される。また、大学在学中にF C東京とプロ契約を結び2008年のキリンカップコートジボワール戦で日本代表デビュー。2010年に海外からのオファーを受けてACチェゼーナへ。現在はインテルナツィオナーレ・ミラノに所属し、日本代表としても活躍中。



僕が生まれた西条の自然と人の温かさが大好きです！

僕が生まれた西条市三芳は、とてもどこかで自然に恵まれた土地。物心ついた頃から野を駆け回り、川で魚を獲り、生家の広い庭でボール遊びをするなど、遊びとい

えば外遊びばかりでした。運動が好きで、誰にも負けない気持ちがありました。身体は小さかったけどガキ大将そのものでしたね（笑）。もうひとつ、得意だったのは

太鼓を叩くこと。三芳祝太鼓を習っていたこともあり、西条まつりでは太鼓を叩くことが僕の使命でした。これは余談ですが、僕は大学時代に怪我で試合に出られない時期がありました。そんなときには応援にまわって太鼓を叩いていました。あまりにも太鼓がうまいというのが評判になり、当時、Jリーグのサポーターから「太鼓を叩いてくれないか」という依頼を頂いたほど。それも西条の祭りのお陰です（笑）。

豊かな自然の中で育んだ運動神経を活かして、三芳小学校1年生（Jリーグ開幕元年）のときにサッカーを始めました。当時、Jリーグがブームになっていた、「僕もあんな風になりたい」と思ったのがきっかけです。でも、本音では憧れていた女の子がいて、その子に「カッコイイ」って思われたかった（笑）。ちょっと不純な動機でしたが、いざサッカーを始めると、サッカーの面白さに目覚めて、気付けばそのとりこになっていました。そんな僕の最大のライバルは、2歳年下の弟でした。弟はドリブル一辺倒の僕と違って、トラップも上手いし、パスセンスもありました。一緒に試合に出ることも多かったのですが、「長友兄弟は弟の方が上手いねなんて言われるのが悔しかったですね。でも、身近なライバルのお陰で、一層サッカーに打ち込むことができました。



これからも西条市からプロが生まれることを願って、子ども達の育成にも力を注いでいます。

血が騒ぐ！「西条まつり」は 私のルーツです

「西条まつり」の魅力は、「血が騒ぐ」。これに尽きます。一年中祭りのことは頭を離れませんが、夏が終わり、少し肌寒さを感じるだけで、頭の中で太鼓の音が聞こえてきます。私は10月11日生まれですが、生後4日目の10月15日に「西条まつり」デビューし、以来48年、皆勤賞。西条人なら当たり前のことでしょうか（笑）。

大人の勇ましく担ぐ姿に憧れ必死で担いでいた頃があり、いつしか青年団として率先して運行するようになり、気づけば若い世代を見守る立場となっていました。祭りととの付き合いはもうすぐ半世紀になります。私が一番好きな瞬間は、15日の宮出し。だんじりを担ぎ伊曾乃神社へ向かう、一年間待ちに待った祭りがはじまる瞬間の高揚感はありません。そして、各地区から集まっただんじりが国道11号で合流し、伊曾乃神社へ集結する。この瞬間のだんじりを担いでいる自分が一番好きだし、一番カッコいいと思っています。西条の男ならみんなそうでしょうね。だんじりを担ぐときは



祭りの後、秋川さんが音頭をとり、だんじりを囲んでの大合唱も名物となっています。

全力投球ですが、これは歌の表現の仕方と同じ。一曲に精神力、集中力、体力すべてを出し切るテノール歌手・秋川雅史のスタイルは、「西条まつり」なくしては生まれなかったと思っています。

また、西条人にとって祭りは、地域の結びつきをつくる大きな存在です。だからこそコンサートなどで日本各地をまわっている「西条まつり」を全国に広めたい」という気持ち湧いてきます。これまでのスタイルは変えずに、どうすればもっとアピールできるか、今後は考えていきたいですね。

「西条まつり」は豪華絢爛。愛郷心を抜きに冷静に考えても、こんなに豪華な祭りはほかにないと思います。ぜひ見に来ていただいて、「血が騒ぐ」感覚を共有しましょう。

強い心身を育んでくれた 西条市の豊かな風土

私が柔道を始めたのは6歳のとき。父が西条市内の少年柔道会で指導者をしており、気付けば柔道の道に入っていたという感じ。父は大変厳しい人でした。正直に言うと幼い頃は柔道が好きではありませんでした。ただ生来の負けず嫌いなから、負けたくない、強くなりたいとの一心で柔道に取り組んできたように思います。ようやく柔道が楽しく思えるようになったのは、高校時代（愛媛県立宇和島東高）。とはいえ、当時の私には決して世界レベルで戦えるほどの実力はありませんでした。四国ではトップに立てても、全国にはもってと強

柔道家
宇高 菜絵さん

Nae Uda
愛媛県西条市出身。コマツ所属。宇和島東高・愛媛女子短期大（現IPU環太平洋大）を経て帝京大に編入。2014年4月の全日本柔道体重別選手権大会で3度目の優勝を果たし、8月の世界柔道選手権大会では初の世界女王に輝く。



2007年から西条市が開催している柔道教室の様子。2015年1月には、西条市総合体育館で小学生から高校生までの地元の柔道選手約100人に対して、得意の大外刈りのコツなどを熱心に指導しました。

いライバルがいましたからね。愛媛女子短大（現IPU環太平洋大短大）に進み、2年時に全日本ジュニアを制し、初の国際大会となった福岡国際女子柔道選手権大会での優勝で、ようやく柔道家としてのスタートラインに立つことができました。ただ、その後のアスリート人生も決して順風満帆とはいえませんでした。それでも故郷である愛媛・西条の方々の応援のお陰で頑張ることができたように思います。

2014年、ロシア・チェリヤビンスクで開催された世界柔道選手権大会（女子57キロ級）で、世界女王になった際には、我がことのように喜んでくださる故郷の皆さんの姿を見て、「柔道を続けてきて良かった」と心から思いました。毎年のように、西条市の少年少女たちを指導する機会を設けるなど、少しずつですが応援への恩返しをしていきたいと思っています。それと子ども時代父の厳しい指導にも、ようやく感謝の気持ちをもてるようになりました（笑）。アスリート・宇高菜絵の心身を育んでくれた西条市の豊かな自然や人々への感謝の気持ちを忘れずに、柔道家として、指導者として、柔の道を一筋に歩んでいきたいですね。

祭りの日は必ず西条にいます！

テノール歌手
秋川 雅史さん

Masafumi Aikawa
愛媛県西条市出身。国立音楽大学・国立音楽大学院を経て4年間イタリアへ留学。1998年、カンツォーネコンクール第1位、日本クラシック音楽コンクール声楽部門最高位を受賞。2001年に日本人テノール歌手としては最年少でCDデビューし、2006年、新井満氏が日本語の詞をつけ、作曲を手がけた「千の風になって」でNHK紅白歌合戦初出場を果たす。